

私たちの視察 2018年2月24日～27日



アーヴィン（中央）を囲んでパガサの委員たち

今年もまたフィリピンを訪問し、多くの支援生、卒業生、そしてエルダ財団のスタッフと会って参りました。

今年は何と言っても多くの卒業生が来てくれて、そのサクセスストーリーを聞かせてくれたことは嬉しいことでした。彼らは苦労を重ね勉学に励み、現在日系企業のコンサルタント、独系企業の会計部門、フィリピン最大の業

務委託会社の採用担当者、コールセンター、教師などとして働いています。

卒業するまで、常に経済的な問題を抱えてきた彼らが、良いお給料をもらい、貯金をし、趣味の時間を持てるようになりました。支援生がいつも口にする、卒業し就職したら、親孝行したい！これを実現している姿にも感激しました。

就職に関して言えば、フィリピンでは日本のような新卒一斉採用の機会はなく、希望の職種に就くのが難しいという問題もあります。また、大学を卒業するだけでは大卒の資格として評価されない面もあります。専門性の高い職業に就くには、卒業後セミナーを受講し、国家資格取得のための試験に合格することが必要なのです。パガサの支援のゴールは、学業を修め、社会人として自立してもらうことです。これまでも卒業後のセミナーの受講代、受験費用などを援助し、国家資格取得まで支援してきましたが、今年も3名の学生を支援いたします。

そして今年も更なる専門性を身に着けたいと、大学院進学を希望する卒業生が数名現れました。限られた資金です。残念ながらそこまでの支援はできませんので、自己努力をしてもらうしかありませんが、嬉しい驚きでした。

マニラの最貧困地区トンドに住む、アジア婦人友好会の支援生とも会うことができました。電気も水道もないような家庭の子どもばかりですが、成績も良く、ソーシャルワーカーや家庭に支えられ、さらに高校、大学と進んでくれる子が出て来てくれると、この地域の良いモデルケースになるものと思われま

す。そしてエルダのスタッフ。エルダ教育財団の活動の基本は、教育、子どもの保護、コミュニティと家庭のサポートです。送られてくるレポートや、訪比の折の面談に同席する保護者をみると、スタッフが子どもと家庭の状況を把握し、教育を受けることを諦めないように支えていることを感じます。パガサの会を理解する彼らと共に、過酷な状況下にある子どもたちのために活動をしていけることを嬉しく感じました。

日比パガサの会 福田恵美子

卒業生・B 基金支援生・C 基金支援生と面談 2月24日25日 比日会館にて



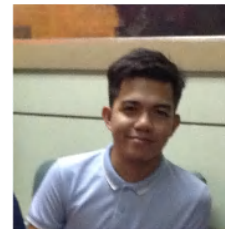
皆、去年よりも少し成長し、学校や生活の様子を口々に話すのを聴くのは嬉しいものです。ただ、ここに来られる子は良いのですが、セミナー代を支援したにもかかわらず、教員試験に落ちてしまったジェフリーのような子は、顔を出し難いのでしょうか、来てはもらえませんでした。一人前の社会人となるまで育てるのは、長い道のりです。

C 基金卒業の社会人



ダニカ(25才)社会人4年目、ドイツ系製薬会社の会計部門に勤務して2年。給料も良く、福利厚生も整っている。会社の資格取得支援制度を利用し、公認会計士試験に再チャレンジしたい。昨年実家も新築。同じ25才のちょっと太めのボーイフレンドと一緒に来て、お金を貯めて将来は結婚したいとのこと。(写真右前がダニカ、その後ろがBF)

アーヴィン(25才)社会人4年目、日系のエンジニアリング会社でコンサルタントとして1日12時間以上働いている。給料は2倍になった。毎年クリスマスには、両親へプレゼントを贈る孝行息子。冷蔵庫、洗濯機、ジプニーと続き、去年は40インチのテレビでした！



マーク(21才)社会人2年目、昨年教職試験に合格し、高校で教えている。生徒と年が近いので、兄弟のよう。大学で学んだ心理学の知識を活かしアドバイスできるので、やりがいを感じているそうです。修士課程でカウンセリングを学ぶことも検討中。

B 基金支援生

ロネル(18才)G12 エンジニアリングか電気工学を専攻することを希望、この3月にTUPを受験予定。昨年トンド地区の火災で家が消失、仮設住宅に住んでいる。成績が良く、貧しいながらも両親もロネルが大学へ進学することを望んでいます。(C基金で支援予定)



B 基金支援生



プリンセス(17才)G12 PUPとUPを受験し、結果待ち。祖母が乳がんになり抗がん剤治療中。両親と兄も投薬中で、経済的にとても苦しい。将来は公認会計士になりたくて勉強を頑張ってきたが、家族の病気で先行きに不安を感じている。是非C基金で大学の学費を支援して欲しいと泣き出してしまいました。(C基金で支援予定)

C 基金支援生

アリエス(21才)トンド出身、小学校からパガサが支援。5年制の大学で土木工学専攻の最終学年。マニラ市内の建設会社で働きながら学ぶトレーニングを240時間行った。建設現場で深夜まで働き大学の授業では解らない実地の経験をすることができた。卒業後は建築技師の国家試験を目指し、働きながら予備校に通い勉強する予定。(予備校費用を支援予定)

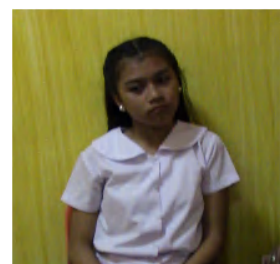


アジア婦人友好会基金支援、トンド地区支援生と面談 2月26日コミュニティセンターにて



エルダのプロジェクト【 balan gay 20】への支援を一昨年から始め、その支援生5名と面談。この子どもたちは今、手を差し伸べないとストリートチルドレンになってしまうような状態にあります。ほとんどの家に水道はなく、電気も正規の供給を受けていません。そのため水くみの手伝いをするなど家族のために子どもたちも働いていました。

レジーナ(14才)中学1年生、数学は苦手だが、成績は良い。父はトライシクル運転手などの臨時の仕事で不安定な収入しかない。母は肺の病気で働けない。基金の支援を高校卒業するまで続けて欲しいとの希望を訴えました。



キアー(12才)小学6年生、今春中学進学予定。父は失業中、母はお菓子を売ったり、家政婦をしたりして働いています。昨年キアーは、結核に罹ったが、今は良くなったとのこと。毎日何度も家で使う水を買って運んだり、料理をしたりとよく家の手伝いをしています。